

オール農学の活動を

山下 興亞

日本農学アカデミー会長、日本学術会議第6部長、中部大学副学長

日本農学アカデミーの第2代の会長を勤めさせて頂くことになりました。このことをたいへん光栄に存じていますと同時にその責任の重さに身の締まる思いをいたしています。力不足ではありますが役員の方々ならびに会員の皆様のご協力を得て、日本農学アカデミーの発展にその職責を果たしたいと決意を新たにしているところであります。なにとぞよろしくお願ひいたします。

ところで、日本農学アカデミーは、平成10年11月30日に第1回の総会を開き、その会則を定めて本格的な活動を開始し、以来3年になろうとしています。今日まで第1期として、会の組織作りや運営の地ならしなど、アカデミーとしての基盤作りに邁進してこられました佐々木会長、長堀および中井両副会長を始めとした役員の皆様のご献身にたいして深く敬意を表しますと同時に、これまでのご努力に対し心から御礼を申し上げます。

日本農学アカデミーは、その設立の趣旨を「日本と世界の農学に関する学術体制や科学技術政策のあり方についての提言をまとめ、広く社会に公表し、オピニオンリーダーとしての役割を果たす新たな組織として設立する。」としています。そして、「科学技術政策を策定し、実施する立場から一定の距離を置いて、政策ならびにその結果について大局的な観点から評価し、

長期的展望に立って意見を述べることを行動規範としています。さらに、世界のアカデミー活動とも連携して農学における国際アカデミーの窓口となり、活動の幅を広げることを目指すとしています。

第1期はアカデミーの器作りであり、第2期はアカデミーとしての中身を発酵させる時期であり、新しい器に新しい酒をどう盛るかが今期の使命だろうと思っています。学術や教育や研究のそれぞれの個別の課題については、すでに多くの学協会が組織されており、それぞれの目的を掲げて広く活動を展開されています。日本農学アカデミーは数ある農学関係の学協会の一つとしてではなく、それぞれの専門別学協会での研究成果を、オール農学の立場で加工し、組換えて農学と農業が果たさなければならぬ人類史的な地球規模の困難な諸問題を学術の論理で整理し、その所在と解決法を社会に正しく普及し、国民的な合意を形成し、もって農学と農業の発展に寄与することです。このためには私たち自身の研鑽はもちろんありますが、アカデミーという正義を持って世の中へ出て行くことだと思います。

具体的な活動については役員会で深め、名譽ある活動を展開いたしたく存じています。会員の皆様のご協力を御願いいたしまして、就任の挨拶といたします。ありがとうございました。